

NEWS

渇すれど盗泉の水を飲まず

◆未曾有の危機

米国発の金融危機により未曾有の経済危機が迫っていると言われます。何だ景気を超える戦後最長の好景気が続いていたといわれるわが国でも、昨年からその余波を受け、景気後退が顕著となってまいりました。多くの国民が、年金・医療に代表される社会保障の破綻などの将来不安に加え、明日の生活をも危惧する時代が訪れようとしています。このまさに「百年に一度の経済的危機」の中、今こそ政治が国民生活の安定を守らなければなりません。

◆あるべき政治家の姿とは

しかし残念ながら現実の政治家の姿を見ると、国民のそのような危機感とはかけ離れた世界にいると感じます。「二世」、「官僚」、「タレント」、「組合」「政治家養成塾」などの出身者で占められた国会は、明らかに庶民生活とかけ離れてしまっているのではないのでしょうか。

平成12年、私は意を決して衆院選挙に挑戦致しました。サラマンの息子としてこの奈良の鶴舞団地に育ち、自らもサラマン、丁稚奉公、経営者とさまざまな経験を経て、この故郷奈良で、今を生きる大人の責任として非効率に陥ったこの国の政治を変えようと飛び出しました。職業としての政治ではなく、生き方としての政治を選択し、公(おおやけ)に奉ずる覚悟を持って臨む。自らに「私心なかりしか?、その動機善なりや?」と問い続

ける。政治家とは、「現代の武士(さむらい)」であると信じ、初挑戦で一敗地にまみれた後も変らぬ想いで取り組んでまいりました。そして二期連続小選挙区当選を果たさせていただいた今も、「政治とは生き方である」との信念は変わりません。政治家のあるべき姿とは、一切の私心を捨て去り、公に身を奉ずる覚悟を持った侍の姿に他ならないと思っています。

◆渇すれど盗泉の水を飲まず

鶴舞団地で過ごした少年時代、父に叱られた時よく耳にした言葉、それが「渇すれど盗泉の水を飲まず」でした。

どんなに渇き、苦しくとも、盗んだ泉の水を飲んでではならぬ!との教えは、子どもの私にとっては厳しい戒律のように聞こえました。「自律・自制」を超越したその言葉の響きに、畏れさえ感じたものでした。しかし政治家として歩みだした今、この父の言葉があらためて胸に響きます。今日の国民生活の不安を知らぬ政治家が、利権に群がり、墮してはいないか?、盗泉の水を飲んではいないか?との問いかけが国民の中から聞こえてくるようです。

ほとんどの政治家は、企業・団体からの献金を受けています。しかし、企業経営をしてきた私から見れば、利益を求める企業が見返りを求め(裏面に続く)

www.mabuti.net

まぶちの「不易塾日記」好評連載中



「まぶち会」 についてのご案内

会の名称：「まぶち会」
(政治資金管理団体に同じ)
会費：年会費(一口)10,000円
期間：1年間(政治献金)



◆ 後援会「まぶち会」とは

「まぶち会」には、二つの目的があります。一つは、私を応援してくださる皆様が一つになれる場所を提供すること。もう一つは、一円たりとも企業献金を受けない私の政治活動を「まぶち会」に入会していただき年会費(政治献金)によって支えていただくことです。

私は「同じ目線」ということを大切にしてきました。「まぶち会」は、後援会長を頂点とした従来のピラミッド型組織の後援会とは異なる、フラットなネットワーク型組織を目指しています。

**入会のお申込、詳しいお問い合わせは、
まぶちすみお後援会事務所 Tel 0742(40)5531
までお願いいたします。**

(表面から続く)るのは当然であり、「献金」と「口利き」が一体となる可能性は排除できません。だから私は政治の世界に入るときに決意いたしました。一切の企業・団体献金を受けない！企業団体献金の受け皿となる政治資金パーティーも開かない！私の活動は個人の献金で支えていただく！と。個人の一票で政治家が支えられると同様に、個人の献金のみによって政治活動を支えてもらうことこそ、自立的な政治家を生み出すことができるかと信じてきました。米国でのバラク・オバマ大統領の誕生は、新しい時代の到来を予感させるものでした。オバマ大統領もすべて個人献金によってその活動を支えられてきました。政治家を個人で支えようとする自立した国民により、初めて自立した政治家を世に生み出すことができるのです。

まぶちすみおは、かつてなかった全く新しい政治家像を自らの五体と五感を全て使って皆様に提示してまいります！(了)

企業献金と個人献金

政治家の活動を支える、「献金」という概念は欧米の議会制民主主義の中で培われてきたものではありませんが、その根底にはキリスト教的献身慈愛の精神が脈づいているのは言うまでもありません。翻ってわが国の民主主義は敗戦によって導入されたものであり個人が投票によって国民の代表を選ぶ普通選挙の仕組みこそ時を経て整備されてはきましたが、個人の財産を拠出する献金についてはなじみの薄いものでしかありません。高度成長期にはむしろ公共工事の発注に伴う政治家の権限が強大化するにつれ、それらを請け負う土建業を中心とする企業がこぞって政治家に献金するようになり、政治家の活動資金の中心はほとんど全て企業献金となってい

きました。しかし今日先進国では、米仏加などでは全面禁止、英独などでも間接抑制しています。世界中で、企業献金という仕組みが口利きあっせんなどの不正の温床と認識され、禁止されるに至ったのです。いまだ、企業からの献金集めに汲々とする政治家によって国政が担われていることを私たちは恥じるべきです。企業献金を減じようとする動き自体は、94年の政党交付金の創設など政治改革の中で少しずつ進歩はしてきましたが、結局今日においても、票は個人が出すもの、財は企業が出すものとの意識は政治家のみならず国民の中にも根強く残っているようです。今後は立法府において企業献金の廃止を法制化することが求められます。

衆議院
議員

馬 淵 澄 夫

まぶちへのご意見は、e-mailで：
office@mabuti.net

国会
事務所

〒100-8981 東京都千代田区永田町 2-2-1
衆議院 第1 議員会館 437号室
TEL 03(3508)7137 FAX 03(3506)3572

奈良
事務所

まぶちすみお後援会(まぶち会)
〒631-0036 奈良市学園北1-11-10 森田ビル6F
TEL 0742(40)5531 FAX 0742(40)5532